

## 研修報告書No.7

所 属：県外病院研修医

研修先：特定医療法人長生会 大井田病院  
医療法人聖真会 渭南病院

私は、2年目の8-9月に高知県の最西端宿毛市にある大井田病院、最南端の土佐清水市にある渭南病院で研修させていただきました。普段いる香川県とは同じ四国でありながら、降水量は2倍であり、県の人口こそ同じ程度なものの人口密度になると1/5にまでなるほど環境が変わる場所でもあります。普段研修している病院でも地域医療は担っていますが、そういった環境による違いや、普段と規模の異なる病院での診療の違いなどを中心に学ばせていただこうと思って、今回の地域研修に臨ませていただきました。

最初は大井田病院での研修でしたが、そこで最初に経験したのが、気管切開し人工呼吸器につながった患者が退院するのに付き添わせていただいたことでした。患者の家が歩いて5分ほどの近い場所ではあるのですが、家族さんもすでに呼吸器の管理に精通していて、自宅への搬送の際に、主治医である院長先生だけが主導するのではなく、家族さんも積極的に連携を取りながら、病棟の看護師、理学療法士さんなどのスタッフとお互いに声を掛け合い、ベッドへの移乗、ベッドの搬送、自宅での再度のベッドの移乗をこなしていたことでした。あとで入退院を繰り返していた方というのはお聞きしたのですが、移動の際の連携の流暢さや、誰もが地図を確認せずとも徒歩で患者宅へと向かう光景は、まさに地域に根づいた診療をされていることを痛感されました。在宅では診療だけでなく、看護やリハビリにも同伴させていただき、同じ患者を看護の側面から、診療の側面からと診させていただく機会もいただきました。自分で出来ることはやらないと衰えていくばかりだし、また家での生活という自然の流れに戻すところで、自分が医師としてどのように医療に関われるかを教えていただきました。また渭南病院ではより外来を中心に研修させていただき、様々なプライマリケアに対する対応の仕方を教えていただきました。原因不明で器質的異常、神経学的異常のない患者もいれば、3日前からの半身麻痺の脳梗塞の患者もいれば、こけて皮膚をパッキリ切った子供まで、第一線で診させていただきました。オフの時間でたまたま患者さんと出会い、楽しく飲ませていただいたのも高知の土地柄なのかもしれませんが、なかなかない経験で楽しく過ごさせていただきました。大井田病院も渭南病院もともに100床ほどの病院で常勤医が5人しかいないのに、救急の受け入れや、内視鏡などの検査も行い、さらに訪問診療、健診などをこなされる先生方の強靱さ、知識の広さなどで軽症から重症まで対応する実力が問われる場所だと思いました。様々なプライマリケアをこなすのに知識のupdateも必要ですし、専門外の広い知識も必要であり、まさに総合医としての仕事をこなしていて、そこで微力ながら働かせていただき、常に近い場所で色々勉

強らせていただきました。

地域研修では土地を知るのが大切と両院長から言われ、地元の店での飲食や、休日には温泉なり、柏島でのダイビングなりとさせていただき、美しい景観とともにリラックスしながら楽しませて頂きました。その中でゆっくり時間を使って自分の将来をどう過ごしていきたいのか、自分がどういった医師を目指していくのかを考えることもできたのですごく充実した時間が送れたと思います。幡多で経験したことを自分のこれからの医療に活かしていき、機会があればまた何かのカタチでも幡多の医療に還元できたら、それ以上に喜ばしいことはないと思います。